



帰郷広報で高等工科学校の魅力を紹介



左：小林生徒・右：繁田生徒



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）静岡募集案内所は、8月9日（金）、陸上自衛隊高等工科学校（神奈川県横須賀市）3年の小林歩夢生徒と同1年の繁田航史生徒が行った夏季休暇間の帰郷広報を支援した。

2人は、静岡所に集まった同校を目指す中学生とその家族を前に、夏制服姿で自己紹介。県立高校と変わらぬ勉強の力キリキリムをはじめ、学生舎での様子や休暇時の過ごし方などを紹介したほか、卒業後は陸上自衛官となることから富士における野営訓練などについて、同期の大切さや訓練でつらかったことなどを交え懇切丁寧に説明するとともに、同校合格のための受験対策や日頃から準備しておくことなどを親身に伝え、受験希望者の不安を解消していた。

また、卒業後のキャリアプランの説明では、戦車をはじめ運用のスベシャリストに進む陸曹として活躍するコース、受験合格後「防衛大学校」へ進み幹部自衛官として活躍するコースや「航空学生」へ進み航空・海上自衛隊のパイロットとして活躍するコースもあることを紹介した。

最後に小林生徒は「来年卒業ですが、静岡の後輩が一人でも多く入学できることを期待しています」、繁田生徒は「みんなと一緒に学生生活を送れることを心待ちにしています」と集まった中学生たちにエールを送った。

2人の説明を聞いた参加者からは「実際に静岡市出身の方と話すことで、高等工科学校をより身近に感じることができ、普段の学校生活について具体的なイメージが湧いた」「自衛官への憧れが強いです、高等工科学校に入学できるようにこれからも勉強や運動に頑張っていきたい」といった感想を聞くことができた。

静岡地本はこれからも、休暇等で帰省する隊員や学生と連携を図り、積極的に説明会を開催して自衛官の魅力を発信するとともに、受験希望者の進路サポートに懇切丁寧に取り組んでいく。

子供たちが自衛官から「身近なもので身を守る」ことを学ぶ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月20日（火）、浜松市立北浜小学校を借りて、防災講話を実施した。

夏休み中の同校体育館に、NPO法人学童保育はまきた秋桜クラブの1年生から4年生の児童50人が、自衛官の話の間こうと元気いっぱいな様子で集合した。

最初は「防災」というテーマと迷彩服姿の自衛官を見て難しく考えていた子供たちも、自衛隊の災害派遣活動の様子をパネル写真を使って説明すると、「自衛隊はお風呂やご飯も準備できるんだ！」と驚きの声を上げ、子供たちの心を掴もうと準備した防災〇×クイズでは、「大雨が降った時に川の側についていいの？」「なますが騒ぐと地震が起こる？」との自衛官の読み上げに真剣に耳を傾け、正解すると飛び跳ねて喜ぶなど、次第に楽しく学んでくれた様子だった。

また、身近なもので身を守るというテーマで、ガラスなどの破片から足を守る新聞紙スリッパ作りに児童たちがチャレンジ。初めは「難しそう」と説明を聞いていた子供たちも、容易に新聞紙がスリッパに変わっていくと感嘆の声とともに、「もう一個作る！」「お父さん、お母さんにも教えてあげる」との会話も。

一方、自衛官による毛布とボールによる応急担架の作成展示では、実際に児童を乗せて搬送し、災害時はお互いの協力が欠かせないことを伝えた。

参加した子供たちは夏休みのひとときを有意義に過ごせたようで、最後は「〇×クイズやスリッパ作成で防災のことがよく分かった」「自衛隊は何でもできるんだ」との感想を思い思いにカードに書いてくれた。

静岡地本は、今後も積極的に地域社会と交流し、幅広い世代との「絆」を大切にして、自衛隊に対する理解と信頼を深めていく。

